



～ 森のニュース 3 ～



神奈川県森林組合連合会林業センター 土場拡張工事完成

○ 林業センターの現状と課題

林業センターは県下唯一の木材素材市場として昭和49年9月に開設されて以来、県内木材の集積・分別・保管・出荷の機能を果たしてきました。

原木の取扱量は、ここ数年13,000～14,000m³で推移していましたが、平成27年度は18,890m³と大幅に増加し、さらに木材入荷の時期が12月から3月に集中するため、林業センターの集積能力を超え、はい積、仕分け作業に苦慮する事態になることもあり、林業センター以外の土地も活用して対応してきました。

県産材は、これまで県内で建築用材としてA材を主体に取引されていましたが、近年、合板やラミナ材としてのB材取引が、県域を越えて広域に行われるようになりました。加えて木質バイオマス発電燃料用のC材需要が、ここ数年で急速に高まるなど、今後も県産材原木の取扱量はさらに拡大していくものと予想されます。

拡張前の林業センターの土場面積は6,500m²でしたが、こうした取扱量の増加や出材の集中、販売先の多様化に対応することができるよう土場スペースの拡大が喫緊の課題となっていました。



着 工 前

○ 工事の概要

拡張工事は、林業センター事務所建物の北部に隣接する田畑跡地と山林を買取り、埋立地の地盤が軟弱であることから、まず地盤改良を実施し、その上にL型擁壁（高さ2m～4.5m）を設置し、埋め立てる手順で行われました。また、対象地内には湧水箇所が多数存在していたため、有孔管を約200m設置し湧水を排水する工事を実施しました。

埋立て土は工事で発生した土砂だけでは足りず、（株）建設資源広域利用センター（UCR）より公共残土の受入れを行い、埋立て土を転圧、整地したあとにアスファルト舗装を実施するとともに切土面には植生吹付を行い、斜面の安定と周辺美観維持に努めました。

こうした工事の実施にあたり国・県からの支援をいただきました。



○ 完成後のすがた

土場面積は3,010m²増の9,510m²と1.5倍になり、過去の実績から算出して20,000m³以上の原木を集積・出荷できる広さとなりました。

これにより、これまで2か所で行っていた業務を林業センター内で行えるようになり、人と機械を1か所に集約することが可能となりました。また、出荷者も用途に応じて2か所に分けて出荷する必要がなくなり、双方にとってメリットとなりました。

当会では新たな販路を確保しつつ、拡張した土場をフル活用するべく、適正な人員配置、機械化の推進を行い、木材のはい積、仕分けのスピードアップ化を実現し、木材取扱量の増加に対応することで、森林組合員の皆さんや林業関係者の皆さんの利益向上に貢献していきます。



完 成

(神奈川県森林組合連合会
指導課 課長代理 川口 誠)